

島根県ゴルフ協会

—— これまでのあゆみ

島根県ゴルフ協会は、ゴルフ競技が国体のオープン競技となることを契機に平成7年に設立され、島根県体育協会に競技団体として加盟した。

平成11年にはゴルフが国体の正式種目となり、島根県内でも11カ所のゴルフ場が協会に加盟し、年間来場者数も約34万人と競技人口のピークを迎えた。

平成18年には専門委員会として、競技委員会・ジュニア委員会・総務委員会を創設し県内アマチュアゴルフの競技会運営やジュニアゴルファーの育成強化にあたるようになった。

平成26年の長崎国体では、県内トップアマの鎌田賢二選手が個人の部で優勝。平成28年にはジュニア教室出身の浜崎未来選手が全国高等学校ゴルフ選手権で優勝し、令和3年に島根県では25年ぶり3人目となる女子プロゴルファーとなった。

ジュニア教室からは、中国アマチュアゴルフ選手権でも上位の成績が狙える選手が少しずつ増えてきており、地区大会上位者のみが出場できる日本アマチュアゴルフ選手権に令和4年には岩崎大地選手と三原颯真選手（令和5年にも出場）が出場するなど、競技力向上の成果が表れてきている。

平成30年からは中国ゴルフ連盟との合同プロジェクトとして新規ゴルファーの創造、開拓のための体験型ゴルフ入門企画「チャレンジゴルファーズクラブ」を開始、令和5年までに累計1314人が受講している。

また、山陰中央新報社と提携し「女性のためのゴルフ



ジュニアゴルフスクール（出雲GC）

レッスン」を開設するなどゴルファーの底辺拡大にも努めている。

—— 現在の状況

国体では出場選手3人の総合力で他県との実力差が大きく、成年男子・女子とも40位前後での低迷が続いている。少年男子はブロック大会突破まであと一歩のところまで力をつけている（令和3年三重国体に出場資格を得たがコロナのため中止）。協会の事業として県内でのゴルフ競技会を年間15競技実施している。ジュニア会員は60人前後で推移しており、ジュニア教室を県内5カ所で毎月開催、ジュニア大会は年間5競技を実施している。

県内のゴルフ場が令和5年末で7カ所までに減少しており、これは全国最少のゴルフ場数となっている。少子高齢化の波を受け各ゴルフ場は厳しい経営環境に置かれている。

—— これから

2030年の島根かみあり国スポに向け、強化指定選手制度を各部門で導入するとともに、島根県スポーツ協会と連携してアスリートキッズの発掘にも努め、8位入賞を目標に強化に励みたい。また、ゴルフ場来場者は年間約25万人前後に減少しており、ゴルフ場と連携し底辺拡大にも努めていきたい。



ジュニアゴルフ体験会（金城CC）